

株主・投資家のみなさまへ



第88期 経営報告書

2009年4月 1 日から
2010年3月31日まで



SMK株式会社

「価値向上」と「新たな挑戦」

— We have to change to remain
the same —



● 企業理念

SMKは可能性の追求を通して総合的な高度技術により、情報社会の発展に寄与する。

● SMK「行動指針」

1. 社会への貢献を考え、誇りと自信をもって行動する。
2. ユーザーの立場を考え、熱意と誠意をもって行動する。
3. 高い目標を考え、失敗を恐れぬ勇気をもって行動する。
4. 明るい社風づくりを考え、信頼と尊重をもって行動する。
5. 世界の中のSMKを考え、国際的視野をもって行動する。

●●● Contents

財務ハイライト (連結)	2
トップメッセージ	3
市場別の概況 (連結)	5
新製品ご紹介	7
TOPICS	9
事業所のご紹介	12
決算概要 (連結)	13
決算概要 (単独)	15
株式の状況	17
コーポレートデータ	18

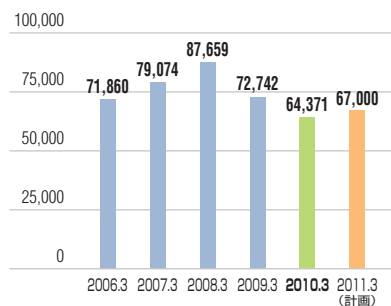
● 財務ハイライト (連結)

	第84期 2006.3	第85期 2007.3	第86期 2008.3	第87期 2009.3	第88期 2010.3	第89期計画 2011.3
売上高 (百万円)	71,860	79,074	87,659	72,742	64,371	67,000
経常利益 (百万円)	5,512	6,190	4,327	1,029	2,582	3,900
当期純利益 (百万円)	3,473	3,693	2,094	△1,620	1,862	2,600
総資産額 (百万円)	61,344	65,575	66,737	58,168	56,113	—
純資産額 (百万円)	32,730	34,564	32,386	29,079	31,127	—
1株当たり当期純利益 (円)	44.33	47.48	27.32	△21.68	25.19	35.22
1株当たり配当金 (円)	10.00	14.00	14.00	9.00	8.00	—

(注) 2011年3月期の配当金は未定です。

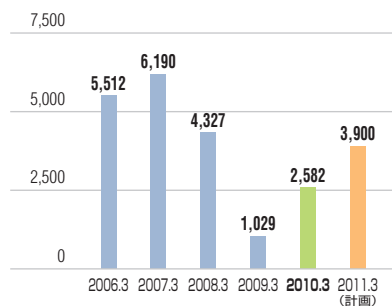
売上高

(単位: 百万円)



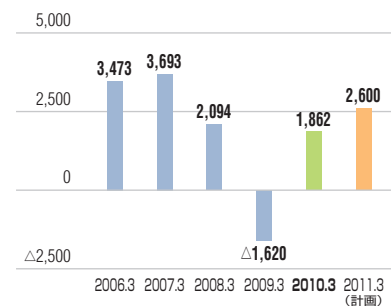
経常利益

(単位: 百万円)



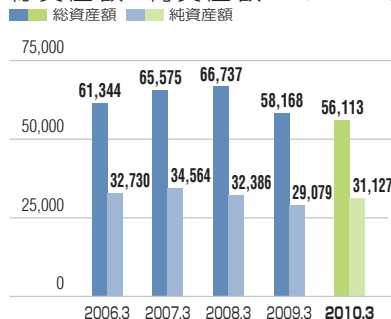
当期純利益

(単位: 百万円)



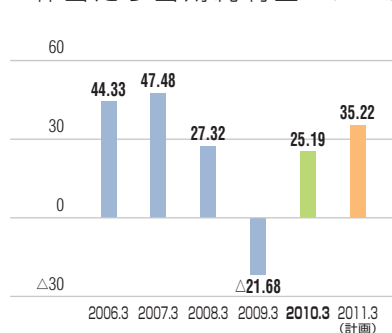
総資産額 / 純資産額

(単位: 百万円)



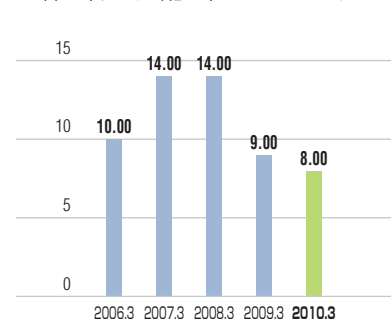
1株当たり当期純利益

(単位: 円)



1株当たり配当金

(単位: 円)



第88期末(2010年3月末)の配当金は1株当たり8円とさせていただきます。

● トップメッセージ



代表取締役社長

中村 哲也

● 当期の概況

世界経済は、リーマンショックに端を発した世界同時不況の影響が残るなか、中国や新興国の経済の拡大基調が持続し、主要各国においても景気の好転の兆しが見え始めており、ようやく底を脱しつつあります。

日本経済におきましても、ギリシャ問題など、先行きにはなお不透明感がありますが、中国をはじめとする海外での需要増を背景として企業収益に改善傾向が見られるほか、政府の景気刺激策の効果もあり、全体としては回復に向かっているものと思われま

す。当社グループの当期における連結業績は、積極的な新製品の投入などに努めましたが、市場が世界同時不況からの回復途上にあり、前期比では減収となりました。一方収益面では、コスト構造の見直しなどにより収益力の改善を行った結果、前期比で増益を達成いたしました。

今後につきましては、市場動向に対応した製品開発力の強化や生産能力の増強、また販売体制の拡充を図るとともに、引き続き経営体質のスリム化による効率的な経営と体質の強化に取り組み、売上と利益のさらなる向上に鋭意努力してまいります。

● 「価値向上」と「新たな挑戦」

—We have to change to remain the same—

当社は今期の経営課題として、「SMKブランド力の向上」「品質改善（Zero Defect運動）」「ものづくりへの再チャレンジ」の3つに引き続き注力し、ロス（ムダ・ムラ・ムリ）の徹底した排除を進めながら、技術・商品開発に対しては今後も積極的に投資を行ってまいります。

また、グローバル市場におきましては、低価格でも一定レベルの品質を提供できる製品への需要が拡大しつつあります。「品質を下げず、コストを削減する」ことにより、こういった市場のパラダイムシフトにも対応できる体制の構築を進めてまいります。

2010年のスローガンには“「価値向上」と「新たな挑戦」—We have to change to remain the same—”を掲げております。このスローガンは「社員個々の価値を高めることで、会社としての価値を向上させる」「グローバル市場の変化に対応するためには、新たなビジネスモデルの構築も視野に入れた挑戦が不可欠である」との思いから生まれたもので、変革への強い意志が込められております。このスローガンのもと、社員一丸となり、成長し続ける価値創造企業を目指して邁進してまいります。

● 環境に対する取り組み

当社は「地球環境との共存」を企業の責務と考え、重要な経営課題として位置付けております。地球温暖化防止に向けて温暖化ガス削減に取り組み、各国の環境規制への対応も一層強化いたします。

また、地球環境に配慮した設計思想の推進・展開、環境・エネルギー・健康市場でのビジネス開拓などにも、積極的に取り組んでまいります。

今後の市場環境につきましては、予断を許さない状態が続くものと予想しておりますが、この状況を変革へのチャンスと捉え、企業価値の向上と利益拡大のために全力で邁進する所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年6月

代表取締役社長

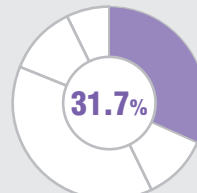
中村哲也

● 市場別の概況(連結) (2009年4月1日～2010年3月31日)

AV分野



HDMI規格 タイプA レゼプタクル

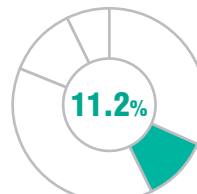


映像・音響部品：204億1百万円

電装分野



フォースフィードバックタッチパネル

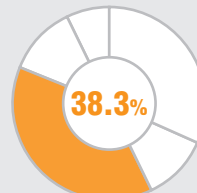


電装部品：72億4千2百万円

通信分野

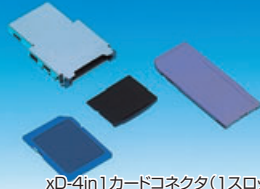


ステレオイヤホンマイク、Bluetoothユニット

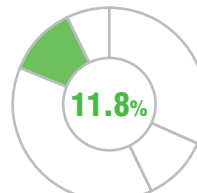


通信部品：246億2千5百万円

情報分野



xD-4in1カードコネクタ(1スロットタイプ)

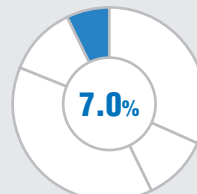


情報事務機部品：75億9千2百万円

家電分野



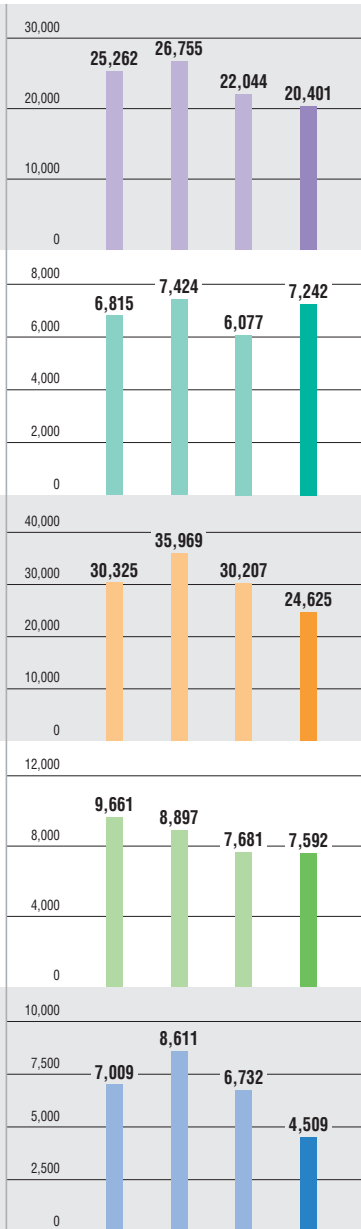
PLC用DS-SS変復調エンジン



電子玩具・家電、その他部品：45億9百万円

売上高 (単位: 百万円)

第85期 第86期 第87期 第88期
2007.3 2008.3 2009.3 2010.3



薄型テレビの需要が好調に推移したことで、リモコンの売上が貢献したものの、デジタルカメラ、ビデオカメラ向け売上が減少したほか、海外のオーディオ機器向け部品需要が市況悪化の影響から低迷いたしました。今後は、AV機器のネットワーク化をキーワードに、薄型テレビ、セットトップボックス向け商品開発を積極的に推進してまいります。

2008年秋から低迷していた部品需要が各国の自動車販売支援策により回復基調に転じ、カーナビゲーション向けタッチパネルの売上が伸長し、国内市場においては、ETC車載器向けコネクタが好調に推移いたしました。今後も操作用部品、車載用コネクタなどの商品開発を進め、顧客ニーズへの対応スピード向上を図ってまいります。

スマートフォン向け売上は、コネクタ、スイッチ、タッチパネルを中心に拡大いたしました。海外の携帯電話メーカー向け売上が不調であったため、全体の売上は、低迷いたしました。今後は、次世代無線通信市場の立ち上がりを視野に入れ、新しい市場ニーズに即した商品開発を積極的に進めることで新規ビジネスの獲得に努めてまいります。

88期後半からパソコン市場向け部品需要が好調に推移しており、プリンター向け新規部品が売上貢献しましたが、プロジェクター、複写機などのビジネス用途向け売上が減少いたしました。今後は、需要拡大が続くタッチパネルビジネスの拡大や次世代のデータ伝送市場向け部品など、市場ニーズを先取りした商品開発を進めてまいります。

空気清浄機向け部品が新規に売上貢献しましたが、エアコン、照明器具などの住宅設備向けリモコンとテレビゲーム機向け部品需要が市況の影響から低迷いたしました。現在、太陽光発電システムや燃料電池などの新エネルギー分野やLED照明市場向けに新製品開発を進めており、今後は、環境ビジネス市場におけるビジネス拡大を図ってまいります。

● 新製品ご紹介

太陽光発電システム市場向け「太陽電池モジュール用コネクタ」レパートリー充実

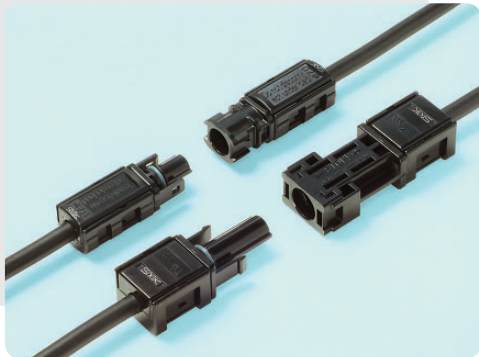
近年、環境への負担が少ないクリーンエネルギーの一つである太陽光発電システム市場に注目が集まり、需要が拡大しています。太陽光発電システムでは、複数の太陽電池モジュール（ソーラーパネル）をケーブルで接続します。このときにケーブル同士を接続するために中継コネクタが使われます。

当社では、かねてよりこの市場に注目し、「太陽電池モジュール用コネクタ」を開発、各種タイプを発売し、好評を博しています。独自の防水構造によりケーブルの防水処理が容易に行え、作業性、防水性に優れた製品です。ドイツのTÜV規格、アメリカのUL規格認証を取得しており、欧米市場にも対応しています。また、IP保護等級はIP67に対応し、安全性および防水性を確保しています。

このたび、新たに小型タイプを開発し、レパートリーの拡充を図りました。今後もさらなる発展が期待される市場の要求に応えるとともに、環境に配慮した製品開発を進めてまいります。

太陽電池モジュール用コネクタ

用途：太陽光発電システム



業界最薄のアナログスイッチを開発

業界最薄となるアナログポインティングデバイスとして「静電容量スイッチ」を開発しました。

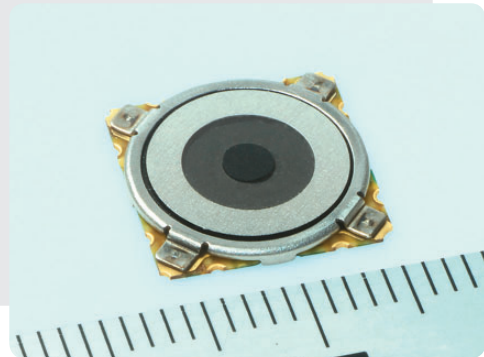
ここ数年、携帯電話の中で特にスマートフォンの普及が進み、アナログ操作スイッチのニーズが非常に高まっています。当社はこのニーズに応えるべく、「静電容量スイッチ」を開発しました。この新製品は、アナログ操作だけでなく、最近の携帯電話の薄型化ニーズに貢献できるよう、スイッチの高さは1.0mmと業界最薄を実現しました。

スイッチのアナログ操作部では、パソコンのマウスのように360°自由に操作でき、単純なX、YだけでなくZ方向に押す強さも認識しスピードの変化をつけることができるため、地図上のカーソル操作やゲームでのアナログ操作として使用できます。また、センターに金属のドームスイッチを搭載しており、確定操作を親指ひとつで簡単に行うことができます。

スイッチ以外にもアナログをデジタルに変換するICとして、低消費電力タイプを標準品で用意しています。

静電容量スイッチ

用途：携帯電話、DSC（デジタルスチールカメラ）



2段階入力フォースフィードバック タッチパネル

抵抗感圧方式の2段階入力フォースフィードバックタッチパネル（FFB-TP）を開発し、受注活動を開始しました。

当社は、既にFFB-TPを量産化しており、様々なタッチフィードバックがダイレクトに指先へ伝わる製品として、国内外から多くの引合いをいただいています。

このFFB-TPの利便性を高めるために今回新たに開発したのが、2段階入力FFB-TPです。「2段階入力」とは、タッチパネルに触れるときの力の強さを変えることにより、1段階目と2段階目で違う目的のボタン操作ができる機能です。

この新技術を生かすため、画面のどの場所に触れても画面切替えボタンを表示する「Dokodemo Touch」と呼ぶアプリケーションも用意しました。これによりブラインドタッチが可能となり、フォースフィードバック機能と組み合わせることで、更に操作が容易になります。

2段階入力FFB-TPの市場投入により、タッチパネルが更に使い易いヒューマン・マシン・インタフェース（HMI）となることが期待されます。

2段階入力フォースフィードバックタッチパネル

用途：カーナビゲーション



モバイルWiMAX™用USB dongle 技術を開発

富士通セミコンダクター株式会社（本社：横浜市港北区新横浜）のご協力により、次世代無線通信として注目を集めるモバイルWiMAX™用USB dongleを技術開発いたしました。

モバイルWiMAX™は、次世代無線ブロードバンド技術として、現在の3G携帯電話より高速データ通信が可能です。また、既存の無線LANなどに比べ通信品質に優れ、広域サービスが可能のため、新しい市場やサービスの開拓が見込まれます。

今回技術開発したモバイルWiMAX™用USB dongleの主な特徴は、①広域の周波数帯をカバー、②伝送距離は広範囲の1~3km、③最大伝送速度は40Mbpsです。

また複数のアンテナでデータを送受信するMIMO技術により、時速60kmを超えるような高速移動中でも通信可能です。

今後当社は、製品化に向け、多様なWiMAX™サービスに対応する製品の開発・販売を推進し事業の拡大を図ってまいります。

モバイルWiMAX™用USB dongle

用途：ノートパソコン等

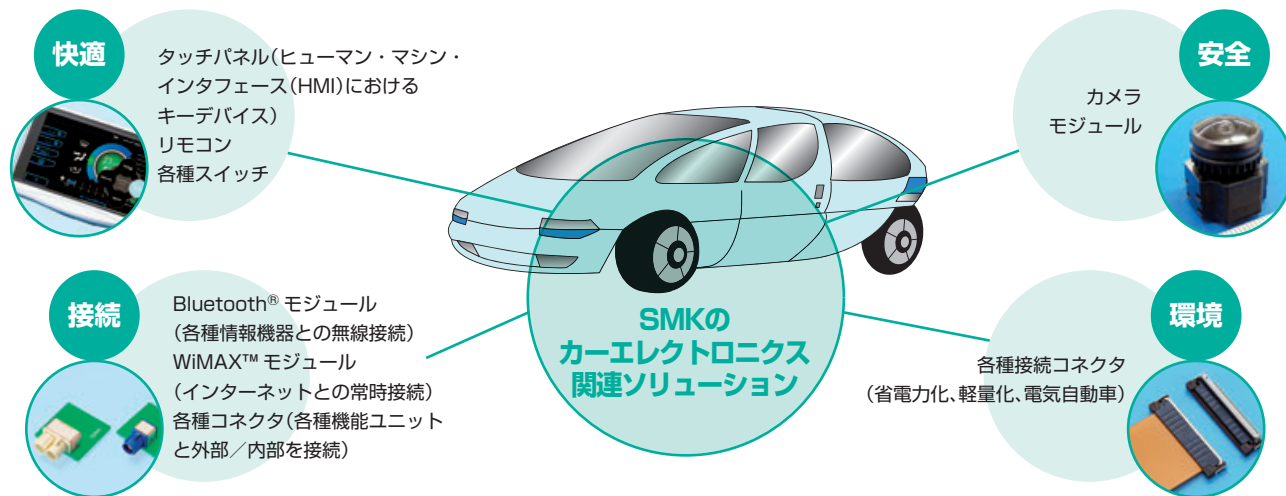


TOPICS

SMKのカーエレクトロニクス市場への取り組み

クルマは、「安全」「接続」「快適」「環境」という大きな技術テーマを抱えており、これらのニーズに応えるため、エレクトロニクス化・電子制御化が急速に進んでいます。

当社では、これらのニーズに応えるため、製品を通じて、以下のような様々なソリューションの提案を行っています。



国際カーエレクトロニクス技術展に出展

2010年1月20日～22日の3日間、東京ビッグサイトにおいて開催された「国際カーエレクトロニクス技術展」に出展いたしました。2回目の開催となるこの技術展は、カーエレクトロニクス技術を一堂に展示する専門技術展です。当社は、電子部品・デバイスゾーンに、フォースフィードバックタッチパネル、車載用カメラコネクタ&モジュール、アンテナコネクタなどカーエレクトロニクス分野に注力した製品を多数展示しました。

また今回新たな取り組みとして、ブースに提案コーナーを併設し、ご来場の取引先の方々に当社の開発案件を紹介し好評を得ることができました。当社ブースへの来訪者数・商談件数ともに前年比3割増となり、多くのご来場の方々に当社の製品および技術力をアピールすることができました。

クリスタル リップスティック マウス™販売開始

SMKブランド製品として2009年12月より一般消費者向けに販売を開始しましたクリスタル リップスティック マウス™は、軽量、コンパクトなため携帯性に優れ、操作スペースが制限される場所での使用に最適なワイヤレスマウスです。雑誌・TVなどのメディアにも取り上げられるなど注目をいただいております。



スタイリッシュな
リップスティック型デザイン。



省スペースでの使用に最適です。

特長

- ①軽量、コンパクトなため、携帯性に優れ、省スペースでの使用に最適です。
- ②リップスティックのようなユニークなデザインとなっています。
- ③CRYSTALLIZED™ - Swarovski Elementsで装飾されたお洒落なマウスです。
- ④充電式のため、乾電池を入れなくて使用することができます。
- ⑤2.4GHz帯ワイヤレス方式のため安定した通信が可能です。

FPD International 2009に出展

2009年10月28日～30日の3日間、フラットパネルディスプレイと製造装置・部品・材料の総合展示会「FPD International 2009」がパシフィコ横浜で開催され、当社も出展いたしました。

当社ブースでは、車載仕様静電容量タッチパネルを始め、触るとクリック感が得られるフォースフィードバックタッチパネルなど実際に触っていただけるデモンストレーション展示を中心に、業界をリードする新製品を展示いたしました。なかでも、2段階入力フォースフィードバックタッチパネルは特に注目を集め、大変好評をいただきました。



フィリピン新工場棟 建設開始

近年、タッチパネルの需要が世界規模で急激に拡大しています。これは携帯電話、デジタルカメラ、携帯ゲーム機、電子辞書、電子ブック、パソコン等の比較的生産数量が多い中小型モバイル機器へのタッチパネルの搭載率が、急激に高まっているためです。この傾向は、今後益々強まっていくと考えられます。また、伝統的なタッチパネル市場であるカーナビゲーションシステムでは、欧州や中国向けの需要が活発になっています。

当社は、いち早く携帯電話市場向けに投影型静電タッチパネルを開発しフィリピン工場生産を開始しましたが、市場で好評をいただいております。

携帯電話や海外カーナビゲーション向けタッチパネルの増産のため、2010年3月よりフィリピンにおいて新工場棟の建設を開始しました。

フィリピン工場の敷地内に延べ床面積8,400平方メートルの新工場棟が完成予定で、2010年10月稼動を目指しています。稼動後の生産能力は現状の5割増の月産150万枚、増産品目につきましては今後の需要動向に応じて柔軟に対応していきたいと考えています。



増築後のフィリピン工場外観イメージ図（中央より右の建物が新工場棟）

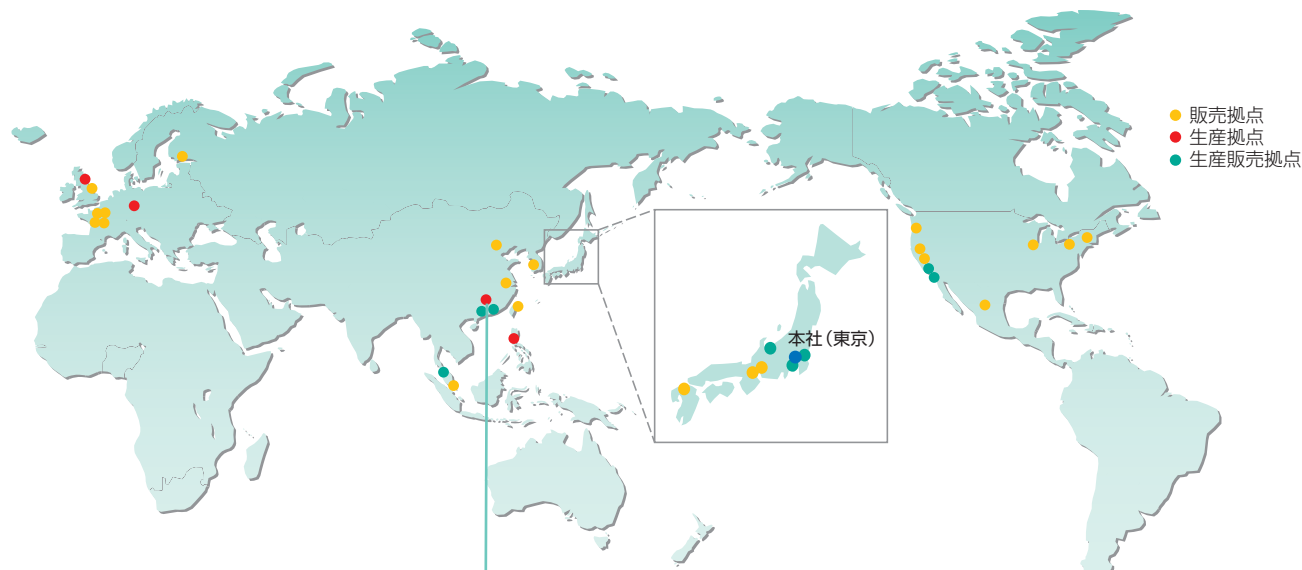
アメリカ デトロイト オフィスを開設

2010年4月1日、アメリカのデトロイトに「SMK Electronics Corporation U.S.A., Detroit Office」を設立し、業務を開始しました。本オフィスは、SOHOの形式によるもので、アメリカだけでなく、欧州、中国など世界主要地域に

における自動車関連の最新トレンドを収集、あわせてSMKの最新技術情報を得意先に提供してまいります。経験豊富な日本人および現地スタッフが常駐し、デトロイトを拠点としたよりキメ細やかなサービスの提供と、自動車産業関連顧客の要望に迅速に対応することを通じ、SMKの自動車ビジネスの発展を図ります。これにより、今後の中長期的に拡大が見込まれる世界の自動車市場への取り組みを強化いたします。



● 事業所のご紹介



中国・東莞 SMK Dongguan Gaobu Factory



SMK東莞（東莞高埗昭和電子廠）は、発展著しい中国広東省の広州市から東に約50kmに位置する東莞市で操業をしています。当工場では金型や自動組立検査機を内製し、部品の製造から完成品に至るまでを同一工場内で一貫生産できることを強みにSMKグループの中心的生産基地として拡大を続けています。

第二製造部部长 李民義



ASIA

SMK High-Tech Taiwan Trading Co., Ltd.
SMK Electronics (H.K.) Ltd.
SMK Trading (H.K.) Ltd.
SMK Dongguan Gaobu Factory
SMK Electronics (Shenzhen) Co., Ltd.
SMK Electronics Trading (Shanghai) Co., Ltd.
SMK Electronics Trading (Shanghai) Co., Ltd. Beijing Office
SMK Electronics Int'l Trading (Shanghai) Co., Ltd.
SMK Electronics Singapore Pte. Ltd.
SMK Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.
SMK Electronics (Philis.) Corporation
SMK Korea Co., Ltd.

EUROPE

SMK Europe N.V.
SMK Europe N.V., U.K. Branch
SMK Europe N.V., France Branch
SMK Europe N.V., Munich Office
SMK Europe N.V., Dortmund Office
SMK (U.K.) Ltd.
SMK Hungary Kft.
SMK Corporation Helsinki Office

NORTH AMERICA

SMK Electronics Corporation U.S.A.
SMK-Link Electronics Corporation
SMK Electronics Corporation U.S.A., East Office
SMK Electronics Corporation U.S.A., San Jose Office
SMK Electronics Corporation U.S.A., Los Angeles Office
SMK Electronics Corporation U.S.A., Seattle Office
SMK Electronics Corporation U.S.A., Chicago Office
SMK Electronics Corporation U.S.A., Detroit Office
SMK Mexicana S.R.L. de C.V.
SMK Mexicana S.R.L. de C.V., Mexico City Office
SMK Manufacturing, Inc.
SMK Electronica S.A. de C.V.

● 決算概要 (連結)

連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科目	第87期 (2009年3月31日)	第88期 (2010年3月31日)
●資産の部		
流動資産	34,302	33,980
固定資産	23,865	22,133
有形固定資産	18,021	16,933
無形固定資産	781	551
投資その他の資産	5,063	4,648
資産合計	58,168	56,113
●負債の部		
流動負債	21,810	17,633
固定負債	7,278	7,352
負債合計	29,088	24,986
●純資産の部		
株主資本	31,432	33,194
資本金	7,996	7,996
資本剰余金	12,347	12,353
利益剰余金	13,961	15,798
自己株式	△2,873	△2,953
評価・換算差額等	△2,421	△2,187
その他有価証券評価差額金	△29	499
為替換算調整勘定	△2,392	△2,686
新株予約権	55	116
少数株主持分	13	3
純資産合計	29,079	31,127
負債純資産合計	58,168	56,113

連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	第87期 (自2008年4月1日 至2009年3月31日)	第88期 (自2009年4月1日 至2010年3月31日)
1 売上高	72,742	64,371
売上原価	63,651	54,009
売上総利益	9,091	10,361
販売費及び一般管理費	8,852	7,882
1 営業利益	238	2,479
2 営業外収益	1,546	1,318
2 営業外費用	755	1,216
経常利益	1,029	2,582
特別利益	78	169
特別損失	2,450	677
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	△1,341	2,074
法人税、住民税及び事業税	480	560
法人税等還付税額	△452	—
過年度法人税等	△95	—
法人税等調整額	351	△348
法人税等合計	283	212
少数株主損失(△)	△4	—
当期純利益又は当期純損失(△)	△1,620	1,862

POINT 1

売上高は、前期比11.5%減となりましたが、営業利益は、新製品の投入や原価減、固定費の削減を推進し、収益力の回復に努めました結果、前期に比べて大幅な増加となりました。

POINT 2

87期は為替差益249百万円を計上しましたが、88期は円高ドル安により為替差損595百万円を計上しました。

POINT

期末配当金を1株当たり8円とさせていただきます。

連結株主資本等変動計算書

第88期 (自 2009年4月1日 至 2010年3月31日)

(単位：百万円)

科 目	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
2009年3月31日残高	7,996	12,347	13,961	△2,873	31,432
当期変動額					
剰余金の配当	—	—	△222	—	△222
連結範囲の変動	—	—	197	—	197
当期純利益	—	—	1,862	—	1,862
自己株式の取得	—	—	—	△66	△66
自己株式の処分	—	5	—	10	15
持分法適用会社に対する持分変動に伴う自己株式の増減	—	—	—	△23	△23
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	—	—	—	—	—
当期変動額合計	—	5	1,837	△79	1,762
2010年3月31日残高	7,996	12,353	15,798	△2,953	33,194

科 目	評 価 ・ 換 算 差 額 等			新 株 予 約 権	少 数 株 主 持 分	純 資 産 合 計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計			
2009年3月31日残高	△29	△2,392	△2,421	55	13	29,079
当期変動額						
剰余金の配当	—	—	—	—	—	△222
連結範囲の変動	—	—	—	—	—	197
当期純利益	—	—	—	—	—	1,862
自己株式の取得	—	—	—	—	—	△66
自己株式の処分	—	—	—	—	—	15
持分法適用会社に対する持分変動に伴う自己株式の増減	—	—	—	—	—	△23
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	528	△294	233	60	△9	284
当期変動額合計	528	△294	233	60	△9	2,047
2010年3月31日残高	499	△2,686	△2,187	116	3	31,127

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	第87期	第88期
	(自 2008年4月1日 至 2009年3月31日)	(自 2009年4月1日 至 2010年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,249	9,003
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,020	△2,480
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,419	△6,741
現金及び現金同等物に係る換算差額	54	△182
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,864	△400
現金及び現金同等物の期首残高	7,073	9,072
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	134	77
現金及び現金同等物の期末残高	9,072	8,749

● 決算概要 (単独)

貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科目	第87期 (2009年3月31日)	第88期 (2010年3月31日)
●資産の部		
流動資産	29,886	27,864
現金及び預金	4,349	4,239
受取手形及び売掛金	19,964	19,099
たな卸資産	2,742	1,800
その他	2,829	2,724
固定資産	23,782	22,347
有形固定資産	12,910	11,615
無形固定資産	151	118
投資その他の資産	10,720	10,613
資産合計	53,668	50,211
●負債の部		
流動負債	19,535	14,999
支払手形及び買掛金	2,776	3,330
短期借入金	10,779	4,406
未払金	4,671	5,529
その他	1,308	1,732
固定負債	7,238	6,920
長期借入金	6,366	6,309
繰延税金負債	—	5
役員退職慰労引当金	390	152
その他	482	452
負債合計	26,774	21,920
●純資産の部		
株主資本	26,866	27,693
資本金	7,996	7,996
資本剰余金	12,354	12,353
利益剰余金	9,291	10,174
自己株式	△2,776	△2,831
評価・換算差額等	△29	482
その他有価証券評価差額金	△29	482
新株予約権	55	116
純資産合計	26,893	28,291
負債純資産合計	53,668	50,211

損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	第87期 (自2008年4月1日 至2009年3月31日)	第88期 (自2009年4月1日 至2010年3月31日)
売上高	59,064	53,683
売上原価	54,253	48,944
売上総利益	4,810	4,739
販売費及び一般管理費	4,730	4,310
営業利益	80	428
営業外収益	2,918	2,069
営業外費用	642	1,063
経常利益	2,356	1,434
特別利益	39	146
特別損失	2,606	764
税引前当期純利益又は 税引前当期純損失(△)	△211	816
法人税、住民税及び事業税	—	62
法人税等還付税額	△452	—
過年度法人税等	△95	—
法人税等調整額	208	△351
法人税等合計	△338	△288
当期純利益	127	1,105

株主資本等変動計算書

第88期 (自 2009年4月1日 至 2010年3月31日)

(単位：百万円)

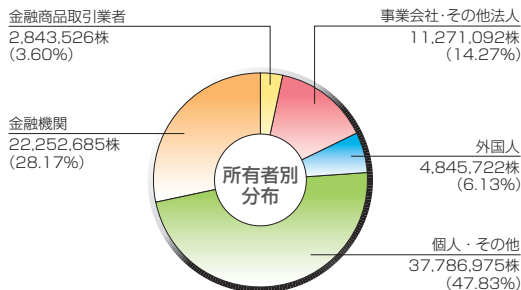
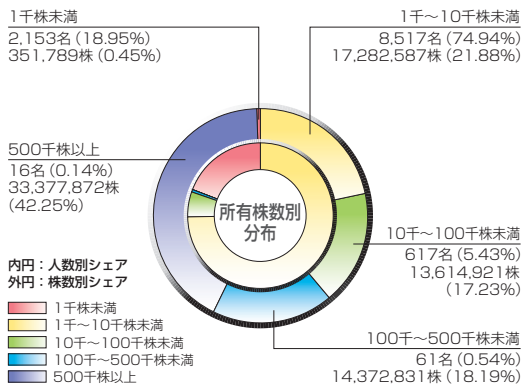
科 目	株 主 資 本						自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金				
		資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	利 益 準 備 金	そ の 他 利 益 剰 余 金			
2009年3月31日残高	7,996	12,057	297	1,306	7,985	△2,776	26,866	
当期変動額								
剰余金の配当	—	—	—	—	△222	—	△222	
当期純利益	—	—	—	—	1,105	—	1,105	
自己株式の取得	—	—	—	—	—	△64	△64	
自己株式の処分	—	—	△1	—	—	10	8	
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—	
当期変動額合計	—	—	△1	—	882	△54	826	
2010年3月31日残高	7,996	12,057	296	1,306	8,868	△2,831	27,693	

科 目	評 価 ・ 換 算 差 額 等		新 株 予 約 権	純 資 産 合 計
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計		
2009年3月31日残高	△29	△29	55	26,893
当期変動額				
剰余金の配当	—	—	—	△222
当期純利益	—	—	—	1,105
自己株式の取得	—	—	—	△64
自己株式の処分	—	—	—	8
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	511	511	60	572
当期変動額合計	511	511	60	1,398
2010年3月31日残高	482	482	116	28,291

株式の状況 (2010年3月31日現在)

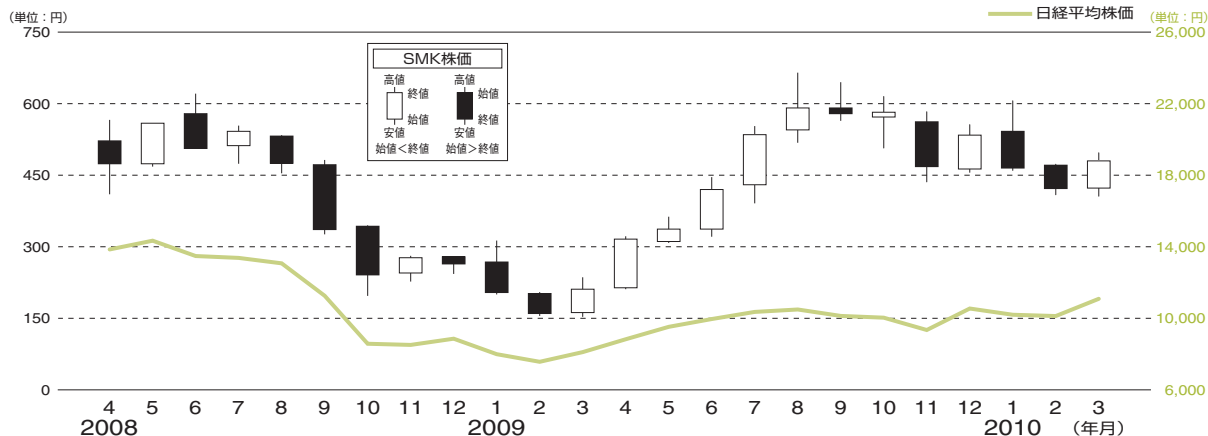
発行可能株式総数…………… 195,961,274株
 発行済株式の総数…………… 79,000,000株
 株主数…………… 11,364名
 大株主（上位10名）

株主名	持株数	持株比率
	千株	%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	4,757	6.43
日本生命保険相互会社	4,001	5.41
株式会社みずほコーポレート銀行	3,663	4.95
大日本印刷株式会社	3,200	4.33
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,134	4.24
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,937	2.62
SMK協力業者持株会	1,771	2.40
池田彰孝	1,717	2.32
明治安田生命保険相互会社	1,566	2.12
財団法人昭和池田記念財団	1,500	2.03



(注) 1. 当社は自己株式5,049千株を保有しておりますが、上記株主からは当社を除いており、また、上記持株比率は当社の自己株式を除外して算定しております。
 2. 上記所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりです。
 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 4,757千株

株価チャート【月足】



コーポレートデータ

会社概要 (2010年3月31日現在)

- 商 号 SMK株式会社
- 英 文 社 名 SMK Corporation
- 設 立 昭和4年(1929年)1月15日
- 主 たる 事 業 電気、通信および電子機器その他産業機械、
情報機器等に使用される各種電子機構部品の製造販売
- 資 本 金 7,996,828,021円
- 従業員数(SMKグループ) 12,906名
- 本 社 〒142-8511 東京都品川区戸越6丁目5番5号
TEL (03) 3785-1111 (大代表)
FAX (03) 3785-1878
ホームページアドレス <http://www.smk.co.jp/>

役員一覧 (2010年6月24日現在)

取締役および監査役

代表取締役社長	中 村 哲 也
代表取締役副社長	池 田 靖 光
取締役常務執行役員	山 田 一
取締役常務執行役員	櫻 井 慶 雄
取 締 役	棚 橋 祐 治
常 勤 監 査 役	池 田 彰 孝
常 勤 監 査 役	小 林 健 二
監 査 役	小 林 秀 文
監 査 役	杉 原 幸 一 郎
監 査 役	中 島 成

執行役員

常 務 執 行 役 員	角 芳 幸
常 務 執 行 役 員	ポール・エバンス
執 行 役 員	松 本 秀 夫
執 行 役 員	歌 崎 晃
執 行 役 員	若 林 幹 雄
執 行 役 員	磯 田 勉
執 行 役 員	宮 川 宏
執 行 役 員	柳 茂 哉
執 行 役 員	石 橋 竹 己
執 行 役 員	大 垣 幸 平

事業所一覧 (2010年3月31日現在)

- ゲートシティオフィス 〒141-0032
東京都品川区大崎1-11-2
ゲートシティ大崎 イーストタワー18階
TEL (03) 3785-1111 (大代表)
- 大 阪 支 店 〒535-0021
大阪府大阪市旭区清水4-3-11
TEL (06) 6953-7222 (代)
- 名 古 屋 支 店 〒453-0014
愛知県名古屋市中村区則武1-19-13 KSビル6階
TEL (052) 453-3011 (代)
- 茨 城 営 業 所 〒319-1301
茨城県日立市十王町伊師20-9
TEL (0294) 20-2144
- 神 奈 川 営 業 所 〒242-0026
神奈川県大和市草柳3-1-8
TEL (046) 262-0710
- 福 岡 営 業 所 〒812-0011
福岡県福岡市博多区博多駅前3-25-24
八百治ビル6階
TEL (092) 472-7236
- 北 陸 営 業 所 〒939-2366
富山県富山市八尾町保内1-1
TEL (076) 455-1213
- 富山事業所・富山テクノロジセンター
〒939-2366
富山県富山市八尾町保内1-1
TEL (076) 455-1212 (代)
- ひ たち 事 業 所 〒319-1301
茨城県日立市十王町伊師20-9
TEL (0294) 20-2111 (代)
- 大 和 事 業 所 〒242-0026
神奈川県大和市草柳3-1-8
TEL (046) 262-0711
- やまと流通センター 〒242-0026
神奈川県大和市草柳3-1-8
TEL (046) 262-6861
- 海 外 拠 点 台湾・香港・中国・シンガポール・
フィリピン・韓国・マレーシア・
ベルギー・ドイツ・イギリス・フランス・ハンガリー・
フィンランド・アメリカ・メキシコ

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

定時株主総会 6月開催（年一回）

期末配当金受領株主確定日 3月31日

中間配当金受領株主確定日 9月30日

定時株主総会の基準日 3月31日

上記のほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。

公告掲載URL <http://www.smk.co.jp/>

ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告とすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

上場取引所 東京証券取引所（市場第一部）

証券コード 6798

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

TEL 0120-232-711（通話料無料） インターネットアドレス <http://www.tr.mufj.jp/daikou/>

【株式に関するお問合せ先・お手続き先】

株式に関するお問合せ先および株主様の住所変更、単元未満株式の買増・買取請求、特別口座から証券会社の口座へのお振替、配当金のお振込等のお手続き窓口は、次のとおりとなります。

1. 証券会社の口座で株式をご所有の株主様：株主様が口座を開設されている証券会社の本支店
2. 特別口座で株式をご所有の株主様：三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
（上記株主メモの「株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関」をご参照ください。）

なお、未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

【単元未満株式（1,000株未満の株式）の買増・買取請求のご案内】

単元未満株式をご所有の株主様は、1,000株に不足する数の株式を当社から買い増し、単元株とすることができます。また、ご所有の単元未満株式を時価にて当社にご売却することもできます。なお、当社は、単元未満株式の買増・買取請求にかかる手数料は無料^(注)です。

(注) 証券会社等に支払う取次手数料につきましては、お取引のある証券会社等にお問合せください。

【特別口座から証券会社の口座へのお振替のご案内】

特別口座に記録された株式は売買ができませんので、特別口座から証券会社へのお振替をお奨めいたします。

【配当金のお振込によるお受取りのご案内】

配当金のお振込先をご指定いただけますと、配当金は当社からご指定の口座へ直接お振込みさせていただくことになり、安全かつ確実に配当金をお受け取りいただけます。

ぜひ、この機会に上記お手続きをご検討ください。

SMK株式会社

〒142-8511 東京都品川区戸越6丁目5番5号
TEL (03) 3785-1111 (大代表) FAX (03) 3785-1878
ホームページアドレス <http://www.smk.co.jp/>

表紙に掲載されている製品写真は、当社の新製品です。
「新製品ご紹介」（7、8ページ）で詳しくご紹介しております。



本誌は大豆油インキを使用しています